

I 法人の運営

会員数 令和6年3月31日現在

【正会員個人】59人／【特別会員】37団体／【賛助会員】2人 合計 98(37団体、61名)

- ◆新型コロナウイルス感染症が5月に感染症5類となり、これまでの制限が解除されました。それに伴い、子育て支援の場に、乳幼児親子や地域の人たちの来所が増えていきました。感染症対策に留意しながら、神奈川区地域子育て支援拠点では、つながりを生み出す様々な事業を展開しました。
- ◆妊娠期から子育て期の親たち、子どもたちは、このコロナ禍において、日常を取り巻いていた多くの体験の場、人とのふれあいの機会を失って過ごしてきました。身近な寄り添い型支援による、安全・安心な親子の居場所が、子育て家庭の身の回り、そこそこにあることが、何より心のよりどころになります。各すくすくかめっ子親子のたまり場・親と子のつどいの広場は、それぞれの方針、方法を模索(休止含む)しながら、地域の親子に向けて場を開き、継続してきました。そして5月以降、徐々にすべてのかめっ子が再開されることになりました。法人は、ネットワークでつながる各子がめ隊と連携を図り、情報を集め、ホームページでの周知、訪問、相談、必要に応じた情報提供等を行いました。
- ◆身近な地域の「場」の意義を更に確認しつつ、一方でコロナ禍だからこそ整備された、オンライン事業やオンラインによる関係各所との打ち合わせが定着しました。リアルではなくても顔が見えるツールを共有することで、コミュニケーションが深まり、すき間時間での打ち合わせを丁寧に重ねることが事業に反映されました。5月以降は、対面事業へのニーズが高まりましたが、保育園・幼稚園の基本情報提供等、多くの子育て世代に関心の高いテーマ型事業については、引き続きオンラインを活用しました。オンライン事業を通じて、拠点等へ来所しない層との出会いにつながりました。まだまだ感染への不安等の声を聴くと共に、在宅で気軽に、子育てに関する学びや地域情報が得られ、人と語り合えるオンライン事業の効果を実感しています。
- ◆神奈川区主催による「第9期地域づくり大学校」の運営を、受託しました。“つながり生み出す新しい地域づくり・ギュギュッとつながる！人・コト・縁”をテーマに、神奈川区区政推進課と協働し、神奈川区内で培ったネットワークを活かし、受講者を区内の多様な地域活動につなぎました。
- ◆令和5年度、国にこども家庭庁が創設されました。“こどもまんなか社会”を掲げ、子育て・子育て支援施策も大きく舵が切られる変革の年となりました。併せて、横浜市の次期の子ども・子育て支援事業計画策定に向けて、13万世帯を対象とした子育て世代のニーズ調査を実施、年度末3月には、その結果が報告されました。法人も、より広いネットワークに参画し、マクロの視座を学びながら、政策等の変化・変革にアンテナを立て、市民として、地域づくりに関わる立ち位置を大切に、それぞれの現場から声を聴き、活かし、今後も柔軟な運営に臨んでいきます。
- ◆法人設立、地域子育て支援拠点開設当初より、運営に携わってきた第一世代チームから、次世代チームにバトンを渡す準備を、数年かけて進めてきました。今年度が最終年度となる中、業務はもとより、運営の柱や拠点という場で培われ、育まれてきた「場の文化」や地域とのネットワーク等を丁寧に伝え、対話をくり返し、人材の循環に向けて運営を整えました。

II 神奈川県地域子育て支援拠点かな一ちえ

1) 親子の居場所事業

●新規登録者数：1214人 / 年間利用者数：47380人(含支援者：3506人)

●アウトリーチ総数：6569人(ひろばの利用者数には含まれない人数)

<東神奈川>

- ・感染症5類となり、5月より利用者が増えました。多様な人や価値観が混ざり合うひろばづくりを目指しました。かな一ちえまつり・リサイクルマーケット・親子コンサート・子育て講演会等の大型事業も再開しました。
- ・コロナ禍において、親子共に体験の場、人とふれあう機会が激減した影響を把握し、様々な時間を届けました。特に乳児期の親子ふれあいタイムの内容を、より伝わりやすいもの、日常に活かせるものに刷新しました。
- ・乳幼児の育ちの場であることを常に認識し、各年齢に応じた遊具、環境を整備すると共にプログラムを定期的に導入しました。2歳以上の子どもの関わり合いを生み出す、ごっこ遊びにつながる遊具・素材を日常的に用意し、広げました。
- ・土曜日は、きょうだい児の利用が多く、異年齢の子どもたちの自由なやりとりが広がり、それを大らかに見守り合う姿が見られました。また、拠点利用児が中学生になり、ボランティア実習に訪れる等、親だけではない、子どもがサポート側として場を見守る循環が見られるようになりました。ひろばでその旨を伝え「つながっていくこと」の実感を共有しました。
- ・父親の利用が日常化し、土曜日は特に多い傾向の中、先輩父親グループによる対話タイムや事業が定着しました。新たな父親企画による「みち・すきま遊び」を野外駐車場で開催、多くの親子でにぎわいました。
- ・子どもの発達の見通しを学び、子ども同士の成長過程を見守り合う親同士の意識の醸成を育むことを大切にしました。また、乳幼児期の親としての他との関わりや体験が、学齢期の地域づくりにつながることを心がけた働きかけをしました。
- ・利用年月が長いきょうだい児親がいることで、子どもの育ちを大らかに見守り合い、「お互い様の子育ち・子育て」の大切さを、当事者間で伝え合う空気が広がりました。また、小学生になった子どもと親が地域ボランティアとしてひろばにいて、多様な人々が乳幼児親子に寄り添い、声をかける居場所に育まれました。
- ・語り合いや話し合い、参加型ワーク等、親同士が学び合う機会を設けました。親としての自分だけでなく、「私」として様々な語り合いやつながり、交流が生まれる「対話の場づくり」として、常設のひろばが機能しました。
- ・就労型社会へ移行し、早期に職場復帰する人が増える中、親子が地域の中や人との間で育てられ、支えられた直接体験の機会を積み重ねられるよう、より多くの参加者を受け入れ、事業を刷新しました。
- ・妊娠期から拠点や地域の間とつながることで、親も子ども地域の人の中で生まれ、支え合うという実感を得られるよう、丁寧に働きかけました。併せて、ニーズの高い妊娠期家庭対象事業を工夫し、参加者枠を増やし交流につなげました。
- ・地域のカフェへ出向き、対話タイムを新たに開催しました。来所ににくい対象者の参加につながる効果がありました。

<入江・新子安サテライト>

- ・コロナから3年、サテライト開所からも3年が経ち、安心感を持って外出できる社会状況の変化に伴い、昼食タイム、遊具の見直し等を行いました。マタニティ、乳幼児親子、きょうだい児親子、継続利用の親子等、多様な人の来所が増えました。互いの姿が見えて、混ざり合い、つながり合うひろばづくりを目指しました。
- ・復職後も来所につながるよう、土曜日に地域や利用者の力を借りた親子で楽しめるプログラムを取り入れたり、専門相談を設け、いつでも利用できる子育ての拠点、交流の場であることを伝えました。
- ・消毒の困難さから控えていた遊具を、日常的に用意し、2歳以上の子どもの活発な遊び、試行しながら創る遊び、子ども同士の関わり合いの場として等、子どもの育ちに添えるような環境づくりを行いました。
- ・子ども同士のけんかや、とりっこ等の様々な場面について、新しいスタッフとの共有を含め、全スタッフが意識してふり返りを日常的に行いました。継続利用のきょうだい児親子が増え、子どもの育ちを大らかに見守り合い、「お互い様の子育ち・子育て」の姿を見せてくれるようになり、当事者間で伝え合う場面も見られました。
- ・1歳児の利用が、これまでの2年間35%程度でしたが、5年度は41%になりました。日々の子どもの姿、やり取りの場面に丁寧に寄り添いながら、子どもの成長過程、親としての他の親子との関わり大切さ等、ひろばやなかまトークの場面で繰り返し伝えました。
- ・初来所時の安心が、その後の来所へつながることを認識して、プログラムの内容検討と更新を続けました。
- ・妊娠プログラムにおいては、エア沐浴等のニーズに応え、利用者親子との関わり合いの機会も取り入れました。地域や拠点の間とつながること、産後に子ども同士の成長過程を見守り合う当事者同士のつながりの大切さ、が伝わりました。
- ・ひろばから浮かび上がってくる声、ニーズを丁寧に掬い上げました。またその力を借りて、アラ20トークや、被災体験を語る考えるプログラム等、利用者と一緒に時間をつくるのが日常的に展開されました。
- ・区担当保健師と共に、地域特性や、親子の現状を共有確認し、事業に反映させました。「初めまして赤ちゃんタイム」の対象月齢を3→5か月に引き上げ、第2子以降も参加可能としたことで、参加者が増え、その後のひろば利用にも、つながっています。

2) 子育て相談事業

●ひろばや出前等の年間相談件数：6926人／12035件

●専門相談：【栄養士】31回／【臨床心理士】26回／【言語聴覚士】30回／【助産師】12回

<東神奈川>

- ・敷居の低い日常の場において、何気なく交わされる話の中から、相談につなげました。
- ・同じ年代や共通の悩みを持つ親同士のプログラムを通して、想いを共感し、相談し合う関係が育まれました。更に、スタッフが入ることで、揺れ動く親の心情に継続的に寄り添い、必要な相談機関につなげました。
- ・父親が自ら相談できるように、体験型と相談を合わせた事業を設けました。父親同士が交流を広げ、家族相談士に気軽に相談できる機会になりました。
- ・定期的な出前プログラムや共催事業を通して、多様な相談を掘り上げました。特に、外での出前プログラムではひろばに足を運ばない親子との何気ない会話から、深い相談につながりました。
- ・専門相談は、出張ひろばを年9回に増やし、様々な効果が上がりました。
- ・乳幼児の利用が多い午前にも専門相談を設け不安が多い第1子の親等幅広い層の相談を受ける機会になっています。

<入江・新子安サテライト>

- ・気軽にひろば利用をしながらも、スタッフとの会話を重ねることで、少しずつ信頼関係が育ち、ふとした会話からのつぶやきをスタッフが汲み取ることができるようになりました。それぞれの利用者にとって、必要と思われる対応を進めました。
- ・ひろばでの会話を傾聴するだけでなく、周りの人を巻き込み、その場での対話を大切にしました。少し先の先輩親からのリアルな会話は、安心につながっています。
- ・就労家庭が多く、利用期間が短くなった保護者に向け、各専門相談を年間1回ずつ土曜日に開催することで、入園後も引き続きひろば利用につながる工夫をしました。
- ・マタニティプログラムは年間で計画、参加しやすいよう、月1回開催としました。地域で活動する様々な立場の助産師3人それぞれとプログラムづくりから行いました。
- ・育児支援センター園との新しい事業をひろばで開催。子育ての悩み全般をトーク形式で話す時間を新たに設けました。常連の利用者でも、保育士に質問をする姿が見られたため、多くの専門家がひろばに携わる良さを改めて感じました。

3) 子育て・地域情報の収集と提供事業

●【子育て・地域情報の収集】行政（区福祉保健センター等）、施設（親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、保育所他、健康・国際・就職・各種相談機関）、地域（かめっ子、地域グループ）、当事者の活動、民間企業による地域貢献事業

●【情報の提供】通信（173か所）、ホームページ、Instagram

<東神奈川>

- ・オンラインでの申し込みを利用しながら、対面でのプログラムとオンラインでのプログラムを精査しながら行いました。
- ・ひろばの混雑状況がスマホからも確認できるように、★マーク表示を続けました。
- ・子育て世代に利用者が多い、SNS (Instagram) で、積極的にひろばの様子や情報、実施報告を投稿することで、「インスタを見て来所しました」「プログラムに参加します」という人が増えてきました。Instagramと共に、地域SNSアプリ「ピアッザ」の周知も行いました。
- ・ホームページにて、すくすくかめっ子等の開催情報も、引き続き伝えました。
- ・子育て家庭応援事業「ハマハグ」の申請を行い、従事する地域グループのネットワークを更に広げ、神奈川区内に、新たに20件の協賛店舗を増やしました。また、利用者へもハマハグ掲載情報を周知できるように工夫しました。
- ・令和6年度に始まる拠点システム準備を進めると共に、他区拠点と情報共有を行いました。

<入江・新子安サテライト>

- ・屋外掲示板の充実を目指し、月毎のカレンダーの拡大表示を行いました。通りすがりの人にも情報が見えやすく、手に取りやすいような工夫をしました。
- ・初回利用者でも入りやすいよう、普段の様子の写真を掲示しました。また、道路に面した入口に、黒板の案内や花を設置し、温かな雰囲気づくりを行いました。
- ・ニーズの高い一時預かり・一時保育の情報について、QRコードを貼り付けた近隣のマップを作成し、スタッフが利用者へ伝えやすいようにしました。
- ・SNS (Instagram) の活用方法を学び、配信の際には、画像による日々の様子を伝える投稿に努めました。また、プログラムの予告をストーリーズに上げることで、閲覧数が増し、ひろばの来所を促しました。
- ・近隣マンションの管理組合の協力を得て、通信の掲示を定期的に行いました。

4) 子育て支援者のネットワーク事業

●【地域で活動している個人・団体によるちえのわタイム】70回、【公園・プレイパーク出前】78回、【共催事業】24回

<東神奈川>

- ・4年ぶりに「かなーちえまつり」を開催。以前からつながりのある団体だけでなく、新たにつながった地域の団体や企業がコーナーを担当し、学生や地域ボランティアが開催を支えてくれました。現利用者に加え、大きくなったかつての利用者等多くの親子や地域の人でにぎわうと共に、担い手同士がつながる機会にもなりました。
- ・コロナ禍を経て、地域ケアプラザ単位でのネットワーク会議や保育所子育て支援連絡会等、支援者のネットワーク会議が再開されています。各担当スタッフが積極的に参加し、顔と顔を合わせた関係を引き続きつないでいます。
- ・区健康づくり係、市民病院、男女共同参画センター等と連携し、健康啓発やライフキャリア等、子育て世代をターゲットにしたテーマプログラムが展開されています。
- ・ファシリテーショングラフィック・ICT・プロジェクトマネジメント・不登校等多岐にわたる分野をテーマに、ネットワーク交流会を開催しました。地域の担い手と共に学び、対話する機会となりました。
- ・子育て支援や地域子育て支援拠点に関する研究に協力することを契機に、大学のゼミ室とつながり、大学の知見をスタッフ間で学び合う機会が生まれました。
- ・地域づくり大学校事業を、法人が受託していることで、地域活動に関わる新たな顔ぶれの方々とつながりました。新たな地域での場が生まれ、ひろばでのプログラムにつながる等の効果がありました。
- ・療育おやこネットワークにおいては、参加する団体が増えています。また、自立支援協議会においては当事者トークが広がるよう対話を重ねています。こうした社会的にニーズが高まる分野でのネットワークの重要性を再確認しています。
- ・今年度多文化共生ラウンジが神奈川区に新設。来年度以降、人・情報等の行き来を通じて連携を密にしていきます。

<入江・新子安サテライト>

- ・夏に開催したネットワーク事業のチラシを22か所の保育園に持参し説明しました。担当職員が交代した保育園等改めて、地域で顔と顔を合わせ、今後につなげることができました。
- ・新子安こども未来会議に参画し、共働き世帯の多い地域の家庭の現状やニーズを共有しました。
- ・新子安地区社会福祉協議会主催の「みんなであそぼう in 新子安」にブース参加し、保育園・学童・学校との関係を深めることができました。
- ・「よこはまプレイキャラバンであそぼう!子安台公園」の第2回目を、地域関係者や横浜にプレイパークを創ろうネットワークと共に実施。外遊びを通して、幅広い世代がつながる場となりました。
- ・区民活動支援センター交流会、施設間連携会議等、区単位のネットワークにサテライトとして参加、関係づくりに務めました。

5) 子育て支援に関わる人たちの人材育成・活動支援事業 ①

●【ネットワーク交流会】4回／【ネットワーク学習会】6回

●【学生・職員の実習】延108人／【学生ボランティア】延69人／【地域ボランティア・親子ボランティア】延682人

<東神奈川>

- ・毎月30人を超えるボランティアがひろばで活動。ボランティアの数も増えて、ひろばに定着しています。また、大学生や専門学校生の実習の受け入れも行いました。
- ・利用者の父親が、父親向け講座を企画(3回)。講師選定から調整まで、父親たちが主体的に行い、パパトークの参加者たちが力を付け、活動の幅を広げました。
- ・地域づくり大学校運営受託後、拠点でも受講した卒業生からの相談に対応する等、人材育成の裾野が広がりました。
- ・子育てをしながら地域活動やグループ活動をする人たちのための連続講座を企画・開催。各回のテーマに応じた関心や意欲が高く、生涯学級への参加等、新たな活動につながるきっかけをつくりました。
- ・地域活動をしている人に、「ちえのわタイム」の講師として来所してもらうことで、子育ての現状や様子を見てもらう機会になりました。また、地域で活動する人に利用者が出会うことで、地域に目が向く機会をつくりました。
- ・地域活動グループが、「子育て家庭応援事業ハマハグ」に関わることで、より地域を知り、活動への意識が高まった様子が見られました。また、振り返りを通して、より市民への周知を図るための企画が生まれました。
- ・支え愛プラン会議・男女共同参画推進審議会・市広報審議会に委員として参画し子育て支援の必要性を発信しました。
- ・区と共に、コロナ禍で休止していたすくすくかめっ子事業の全体交流会を再開しました。方面別交流会では、以前のように、地域の支援者となる近隣の施設等に声をかけ、地域の子育て支援を語り合う機会にしました。
- ・公園へのアウトリーチとして、高層マンションのあるコミュニティの薄い地域を訪れ、情報提供と相談の機会を設けました。

5) 子育て支援に関わる人たちの人材育成・活動支援事業 ②

<入江・新子安サテライト>

- ・10代～70代のボランティアによる活動が、今年度も継続してありました。拠点利用者だった父親によるボランティアも時々あり、様々な交流がひろばに広がりました。
- ・妊娠期と産後の親子が、助産師や地域の支え手と共に町を歩く「かなさんぽ」では、前年に引き続き2回目となる入江・新子安地区と、新たなエリアとして、松見地区2か所で実施しました。入江・新子安地区の支え手の方たちとは、関係が紡がれ、地域の活動情報のやりとり、行き来の機会も更に増えています。松見地区は少し離れたエリアですが、支え手の方たちとつながったことで、松見地区の町ぐるみの支援の温かさを、利用者に情報と共に伝えられるようになりました。
- ・近隣のかめっ子で、新たな支え手募集が行われたことをきっかけに、訪問し交流ができました。支え手の方と、利用親子から、その地区の良さを共有でき、その様子は季刊紙「すくすくかめっ子元気号」にも掲載しました。

6) 子育てサポートシステム神奈川区支部事務局運営事業

●令和6年3月31日付会員数：【利用会員】878人／【両方会員】55人／【提供会員】138人

●事業：【入会説明会参加者】449人／【援助実績】3938件／【研修会】14回

- ・産前産後の園送迎依頼が多く、提供会員へ、検討しやすいよう丁寧に聞き取り、活動につなげることができました。
- ・活動報告書の提出で来所する提供・両方会員に、活動に対する不安や要望を聞き取り、その対策を一緒に考えることができました。
- ・集団の入会説明会を、かなーちえやサテライトで行い、ひろば開館時間内や夕方に開催する等、様々な場面で行いました。また、調整の難しい家庭には、個別での入会説明会を随時行いました。
- ・配慮の必要な家庭へのサポートを、区と連携することができました。
- ・7月からの新規事業に向け、入会説明会や入会説明会のチラシ、利用・両方会員へのお知らせにて、利用料の変更等を周知しました。また、対象となる家庭には、「おためし券」発行の案内を行いました。更に、提供・両方会員へは活動報告書の記入変更、給付金請求等について、説明会を複数回開催しました。
- ・令和6年度から始まる新システムに向けて、市や18区と共にシステム構築のための検討を重ね、周知を進めました。
- ・新規事業・新システムによって、利用がしやすくなりましたが、それに伴い、提供会員募集を積極的に行うことが必須となりました。今後も、関係機関と連携を取り、効果的な周知活動を探っていきます。
- ・難しい援助依頼や、会員への対応は増える一方なので、コーディネーター自身のケアも必要です。外部の研修等にも参加し、スタッフ間で共有していきます。

7) 利用者支援事業

●年間相談件数：東神奈川198件 / サテライト 347 件

<東神奈川>

- ・父親や、保護者以外の周囲の人からの相談、関係機関からの相談が寄せられました。他地域へ連絡を入れることも複数ありました。様々な機関を結ぶ起点として、利用者支援事業が機能してきています。
- ・第2子出産時の不安が多く聞かれました。制度を案内すると共に、夫婦間のコミュニケーション、周囲の親子とのつながりも意識した関わりを心がけました。
- ・離婚、ひとり親、面会交流、外国籍、ジェンダー等、多様なニーズの相談が増加しました。関係機関との連携や情報収集、研修への参加等に注力し、対応に反映させました。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類となり、対面や交流への需要が高まり、子育て家庭のニーズの変化も感じました。それに応じて、情報提供の方法、共催事業の内容等を工夫しました。コロナ禍で利用が促進されたオンラインプログラムは、オンラインにフィットする内容が精査され、定着してきました。そこをきっかけに、対面の相談や拠点来所につながることも増えました。
- ・子ども家庭庁が創設し、様々な制度が新設される中、外部の研修等の機会も活用し、利用者支援事業が果たすべき役割を確認、事業への反映を検討しました。
- ・横浜子育てサポートシステムでおためしクーポン券の配布が始まり、提供会員を増やすことが一層の課題となりました。連携先でも課題を共有するよう努め、地域全体で子サポ事業を促進する気運を高められるよう取り組みました。また、一時保育へのニーズも高まり、そこを捉えた情報の提供や事業展開を行いました。
- ・出生数が増えつつ減少し、マタニティ家庭の孤独感が増しました。マタニティプログラムでも、より一層マタニティ期から拠点や地域とつながり、その家庭なりの子育てが構築していけることを意識しました。

<入江・新子安サテライト>

- ・日常的にひろばに出る機会を増やし、継続支援している親子はもとより、ひろばで気になる親子と顔をつなぎ、ゆっくりと話を聴きながら、必要な情報提供を行いました。
- ・サテライト地域では、昨年に引き続き、公園や保育園の園庭開放に出向き、更に大口・七島、松見方面のすくすくかめっ子を訪問しました。様々な場に出向く機会やアウトリーチ先を広げ、拠点に出向かない親子に出会う機会を増やしました。
- ・すくすくかめっ子訪問では、支え手の方とかめっ子の困りごと等を共に考え、更に利用者支援の周知にもつながりました。
- ・3月に開所した神奈川区多文化共生ラウンジとの連携や、共催事業に向けて、拠点のネットワークと共に、関係づくりを進めました。
- ・地域に住む外国につながる親子が、継続的に地域につながれるように、近隣で活動する日本語教室ボランティア「ちゅうりっぷ」と一緒に、「Multicultural トーク」(多文化おしゃべり会)をサテライト拠点においてスタートし、来所につながった外国籍の親子も数組ある等、地域の受け皿となりました。
- ・育児支援センター園とネットワークを深め、センター園の育児講座や園庭開放に参加しました。また、拠点においては、プログラム「わたしの「?」を聞いてみよう!保育士とみんなでトーク」を年2回開催。育児支援担当保育士が参加することで、互いの機能や地域支援について相互理解を深め、親子を見守る体制がより円滑になりました。

Ⅲ すくすくかめっ子事業

●訪問活動：菅田東・片倉台団地・神北・松見第一・松見みはらし公園・子安入江・大口七島・神奈川・松ヶ丘・幸ヶ谷

●季刊紙「すくすくかめっ子元気号」発行：4回

かめっ子親子のたまり場訪問、全体交流会・方面別交流会・全体研修会、区民向け講演会

区長訪問、子育てサポートシステム預かり事業、保育園かめかめレンタル、自然遊び、「かなぶっく」かめっ子訪問記を掲載しました。

●全体交流会：22地区、35名

テーマ：すごろくワークで語り合う「かめっ子で育まれる♥地域のまなざし」

●方面別交流会：4回、35地区、88名

8/29 神之木地域ケアプラザ、9/22 菅田地域ケアプラザ、9/25 かなーちえ、9/29 六角橋地域ケアプラザ

●全体研修会：22地区、35名

テーマ：人と人を紡ぐ♥コミュニケーションのヒント「聴くを感じる・聴くを磨く」

講師：かめおかゆみこさん

●事業のふり返し：

・会場等の都合で、休止していたかめっ子が再開し、今年度後半には、すべてのかめっ子会場が再開しました。

コロナ禍で、地域のかめっ子の認知度が下がっていましたが、赤ちゃん訪問員や地区担当保健師からの周知の甲斐もあり、徐々に参加者が増える傾向が見られました。特に、各会場では、Xmas 会等、季節のイベントを取り入れることで、参加者からも、喜びの声を聴く機会がありました。

・かなーちえでも、スタッフだけでなく、第三者委員の方たちからも、常に参加を促す声かけや、Instagram を使ったの周知を呼びかけ、“身近な”かめっ子の存在を伝えました。

・かめっ子訪問では、各地域の中で、多世代が関わる様子を伺うことができました。また、コロナ禍以前のように、親子だけでなく、地域で活動するグループや近隣の保育園、小学生が、気軽に顔を出す様子もありました。

・複数のかめっ子会場で「預かり」ができるように、支え手の方が子育てサポートシステム提供会員の研修を受けました。

Ⅳ 第9期 神奈川区地域づくり大学校事業

●事業目的：

・地域で活動する区民が「神奈川区地域づくり大学校」で、地域の様々な課題を解決していく力を養うため、先進的な取組事例を学ぶと共に、グループワークを通じて課題解決の手法や魅力づくりを学び合う場を提供する。

また、自治会町内会をはじめ、地域での活動につながる人材の発掘を目指す。

・変化する時代・社会において、人にとって、まちにとって、「つながりは生きる力」であるという確かな軸を真ん中に据え、“地域づくり”というキーワードに関心を寄せる地域人材を募り、学びと実践力を身につける。

・多様な立場の人と人とが地域を越えて出会い、交流し、with コロナの中、これからの時代に求められる地域の新たなつながりを生む、コミュニティづくりを目指し、一人ひとりの「こうなったらいいな」をカタチにしていく。

更に、同じ思いのプランをグループ化させ、広がりのある地域での活動につなげていく。

●実施体制：

神奈川区連合町内会自治会連絡協議会、神奈川区役所、特定非営利活動法人親がめ

(協力：社会福祉法人横浜市神奈川区社会福祉協議会)

●対象者：神奈川区内在住・在学・在勤の方、受講者 26名

- ・これから地域で何かやってみたい方
- ・神奈川区で自治会町内会等の地域活動（青少年指導員、子ども会、おやじの会等）に関わっていて、新たな活動や活動の見直しを考えている方
- ・その他の地域活動に関わっていて、新たな活動や活動の見直しを考えている方

●実施期間：

- ・9/24 「ここからはじまる地域づくり大学校」～笑って語ってすごろくワーク～
- ・10/22 「変化したぞ！地域づくり」～新たなポイントを伝授します～
- ・11/19 「いろいろな活動のカタチ」～先輩たちが語る♪私の活動の原動力～
- ・1/21 「アイデアを磨く！」～対話×ひらめき×対話～
- ・2/18 「終わりがはじまり！」～やりたいことを地域につなげるアクションプラン発表会～
※アクションプラン（地域で実践したい取り組みを具体化した計画）を講座の中で作成、提出をもって卒業

- ・8/31 神奈川区区民活動支援センター登録団体×地域づくり大学校卒業生
～うれしい出会い！ワイワイ語り合い！～かながわビビッと大交流会

- ・1/21 神奈川区の事例から学ぶ 地域活動×自治会町内会活動がつながるヒント
第7期までの卒業生と自治会、町内会キーパーソンとの交流会

●事業成果：

- ・地域づくりや地域活動における5つの柱を、受講生が対話型で学び合い、感じ合う講座となりました。
(5つの柱：①対話力をつける②知る力をつける③地域活動に必要なスキルを学ぶ④実践の場から感じる⑤ネットワークにつながる)
- ・その成果として、24名の地域で実践したい取り組み、具体化した計画、アクションプランを、冊子の形にまとめ、関係各所に配付しました。
- ・受講生同士が、つながるツールを持ち、来年度に向け、個々のみならず受講生全体で活動を企画する等のアクションが受講生発信で起こっています。
- ・拠点の成果としては、講座の開催によって、地域子育て支援拠点を知らなかった人が足を運ぶ機会となり、幅広い層の方への周知となると共に、継続して地域活動や子育てに関する相談が持ち込まれ、拠点が地域における子育て・子育ての目的の基に、活用される契機となりました。
- ・法人として、区政推進課との年間を通じた話し合いや講座準備を通して、協働を継続して実践する経験を得、そのエッセンスやノウハウが蓄積されました。
- ・新たに、ふり返しシート・各回の報告書を基にしたマガジン作成➡区のホームページで発信・地域づくり大学校のPR動画作成（LOCALJAPAN 株式会社、第6期卒業生頼氏に依頼）に取り組みました。

V 親と子のつどいの広場事業(しゅーくるーむ)

親子が気軽に集い、交流できる居場所を、身近な地域で利用できるよう取り組む。

テーマ「みんなで育ててみんなで育つ」

1) 子育て親子の交流、つどいの場の提供

●新規登録者数：71組 / 年間利用者数：3974人

- ・10周年を迎え、利用者アンケートを実施し、広場づくりに活用しました。
- ・常連の利用者を中心として、初来所や1組だけで来ている親子にもお互いに声をかける雰囲気が出ています。初来所の人から「こんなアットホームな居場所が近くにあったなんて!」という声をいただくこともありました。利用者も一緒に広場のことを考えていけるような取り組みを続けることで、利用者自身が「心地よい広場づくり」を意識してくれるようになっていくと感じます。
- ・利用者一人ひとりに合った関わり方をスタッフが感じ取り、ミーティングで共有・工夫することで、全体として居心地の良い雰囲気づくりに努めました。
- ・ランチタイムを復活させ、午前を通しての利用を再開しました。緩和できる場所を取り入れつつ、コロナ以降の衛生観念を考慮し、利用者の声を聞きながら安心・安全な広場を目指しました。
- ・保育園・幼稚園の入園前トーク等、テーマを絞ったトークタイムを実施し、利用者同士の情報交換や気持ちの共有をする時間を設けました。

2) 子育てに関する相談、援助の実施

- ・日頃からの関わりを通して関係性を築き、相談しやすい雰囲気づくりを行いました。
- ・利用者の話にしっかりと耳を傾け、相談内容によっては区で行われている相談日や各行政サービス、保育所等の情報を伝え、利用者自身が選択できるような援助を行いました。
- ・利用者同士で相談・解決できるよう、スタッフがパイプ役となってつなげながら、情報・資料の提供の支援を行いました。
- ・広場で起きた様々な事例に関して、スタッフ間で共有・意見交換をすることで、一人ひとりが状況に対応できるようなスキルを身につけることにつながりました。
- ・4か月に1回、横浜子育てパートナーが来所しました。(相談や情報発信)
- ・赤ちゃん学級等で区の保健師と連携し、気になる親子に対する対応等アドバイスをもらったり、情報共有をしました。

3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・地域や関連施設、地域子育て支援拠点と連携し、情報収集に努め、利用者が手に取りやすいように掲示したり、各々のニーズに応じてスタッフから手渡す等、情報提供をしました。
- ・地域の子育て支援ネットワークと連携を取り、情報発信を図りました。
- ・近隣の福祉法人施設・地域コーディネーターと連携を取り、共催イベントの実施や情報提供等、交流を図りながら情報発信に協力してもらいました。

4) 子育て及び子育て支援に関する講習の実施

- *かなぷち子育て応援タイム 2回(幼稚園トークイベント、おいもほりイベント)
- *保育・教育コンシェルジュ来所による保育のお話 2回
- *お外で!ハロウィンイベント(近隣の老人ホーム・地域ケアプラザとの共催イベント)
- *ハロウィンウィーク・クリスマスウィークとして、自由参加の工作イベント *足形アート 3回 *ストレッチタイム 月2回
- *おはなし会(読み聞かせボランティアグループ)月1回 *お誕生会
- *子育て支援員による手遊びタイム *先輩ママをむかえての入園前トークタイム
- *土曜日「おでかけ♪しゅーくるーむ」地域ケアプラザ、うさぎ山プレイパークへのアウトリーチ月2回

5) 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携

- *福祉保健センター地区担当保健師 *保育・教育コンシェルジュ
- *地区センター・地域ケアプラザ・地域子育て支援拠点との共催企画の実施
- *スタッフが地域の赤ちゃん学級(月1回)・外遊び応援隊(月1回)・子育て支援拠点のスタッフを兼任
- *地域の子育て支援ネットワークへの参加 *かめっ子訪問・告知 *子育て支援員との交流企画
- *こんにちは赤ちゃん訪問員へのチラシ依頼 *地域における子ども関連の連絡会への参加
- *地域懇談会への参加 *地域支え愛連絡会への参加 *近隣保育園との連携 *地域企業との連携

10周年報告書を作成し、地域の場に出向いて手渡す機会をたくさんつくることができました。その場での出会いから、かめっ子訪問、保育園との連携、地域企業との連携等、新しい取り組みが生まれました。

VI 親と子のつどいの広場事業(ほしのひろば)

誰でも、どんな時でも気軽に立ち寄り、のんびり過ごし、他の親子と交流できるよう取り組む。

テーマ「ほっとできる居場所 ☆ほしのひろば」

1) 子育て親子の交流、つどいの場の提供

●新規登録者数：139組 / 年間利用者数：3451人

- ・感染状況が落ち着き、広場利用も2部入れ替え制を廃止。6月からはランチタイムの再開をしました。コロナ禍で他者との飲食の機会もなくなっていた親子にとって、更に交流の深まる時間となりました。
- ・0歳児で入園する親子が大多数です。短い期間でも広場を利用することにより、地域の資源を知り、近隣に住む者同士が子育ての仲間として、顔と顔がつながるきっかけとなるよう、個人情報に留意しながら声をかけていきました。
- ・初めての利用のきっかけとなる「赤ちゃん DAY」また「おおきい子あつまれ DAY」では、同じくらいの子どもを持つ利用者同士が知り合い、情報交換をする場となりました。様々な場面で利用者同士が協力し合う姿があり、それがきっかけで会話となり、交流が生まれる様子が伺えました。
- ・一時預かり事業は、209組(月平均 17.4組)の利用がありました。昨年度に比べ利用は増えています。広場での預かりの様子を見て、安心して利用してみようと思うきっかけとなったとの声がありました。リフレッシュから就労まで、様々な理由での利用となっています。
- ・地域の中にある「預かり」を意識し、一時預かり事業が“サービス”にならないよう、利用者に声をかけています。その結果、広場利用と預かりをバランスよく利用される人がほとんどです。スタッフが責任を持って「預かり」をするのはもちろんですが、みんなで見守り合うことで次の利用者の安心につながっています。

2) 子育てに関する相談、援助の実施

- ・スタッフは常に利用者の声に耳を傾け、限られたスペースでも話しやすい空間づくりを心がけています。相談の内容によっては、区福祉保健センターの相談や、地域子育て支援拠点の専門相談や仲間トーク等を案内しました。どのスタッフも同じ対応ができるよう、スタッフ会議で共有し、意見交換を行なっています。
- ・横浜子育てパートナー、YMCA東かながわ保育園の保育士、地域担当の保健師に定期的に訪問してもらい、いつもの広場で気軽に相談できる機会を設けています。スタッフ以外の専門家に話を聞いてもらうことで、より利用者の安心につながることができました。

3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・地域子育て支援拠点や子育て支援日、また街中の各所で出会った親子からの口コミで、初めて利用する人が増えています。当事者からの発信が大きな力となっています。
- ・支援日や赤ちゃん学級にスタッフが出向き、顔の見える関係づくりに努めながら情報提供をしました。
- ・公式 LINE 配信に加え、子育て世代の情報源である「Instagram」での配信をスタートしました。写真や文章で広場の様子を伝えることで、まだ広場に来たことがない人にとっても、安心できる情報になったとの声がありました。

4) 子育て及び子育て支援に関する講習の実施

- ・YMCA東かながわ保育園保育士来所×12回(子どものごはんお話し会、トイレトレーニング、園長先生のお楽しみタイム含む)
- ・外遊び×月2回 地域にある星野町公園とポートサイド公園にスタッフが出向き、親子が外に出て遊ぶきっかけづくりをしています。外遊びを通して、子どもの育ちを伝え見守り続けていきます。

5) 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携

- ・子育てに悩みを抱えた利用者がより多くの居場所に出向き、またそこで必要な情報を得ることができるよう、かなーちえスタッフとも連携を取り合い、利用者にとってより良い環境となるよう努めました。
- ・コットンハーバー地区すくすく子がめ隊合同「ミニミニ運動会」「ミニクリスマス会」
- ・区福祉保健センター地区担当保健師・民生委員児童委員・主任児童委員・地域ケアプラザ・区民活動支援センター・すくすく子がめ隊・近隣保育園保育士他と共に「地域連携ミーティング」
- ・きらふわ遊びの会「きらきらプレイパーク@星野町公園」年6回参加
- ・CCT(地域コミュニティ)主催のフリーマーケットに、コットンハーバーすくすく子がめ隊と共に参加。地域の子育て支援のPRを行いました。また当日の売り上げの一部をすくすく子がめ隊へ寄付し、地域の子育て支援のために遣っていただきました。